

第3学年 学級活動 学習指導案

令和3年2月1日(月)5校時
 2組 男子21名 女子20名 計41名
 指導者 教諭 永山 美鈴

1 議題 「3年2組お楽しみ会をしよう」(学級活動(1))

2 議題について

(1) これまでの議題や題材について

これまでに、子どもたちは下記の議題や題材について話し合い、実践してきた。

(1) 学級や学校における生活づくりへの参画	(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康や安全	(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現
- 学級目標を決めよう - みんなで遊ぶ日について考えよう - 言葉遣いについて考えよう - みんなで頑張りたいことを考えよう - お楽しみ会をしよう - お楽しみ会のルールを考えよう - アルバム作りをしよう - 長縄チャレンジの作戦を立てよう - お楽しみ会をしよう	- 交通安全教室 - 夏休みの過ごし方 - ぼくとわたしのからだ - 冬の病気 - 冬休みの過ごし方	3年生になって 1学期の係・当番を決めよう 2学期をむかえて 2学期の係・当番を決めよう - いよいよ3学期 3学期の係・当番を決めよう

(2) 本時の議題について

本学級の子どもは、3年生になって10か月が経ち、あと2か月で4年生になる。4月に学級目標を話し合い、「ルールをまもり なかよくたのしく けんかのない 3年2組」と決定した。この目標のもと、よりよい学級づくりを目指して取り組んでいる。

本議題は、この学級で過ごす時間も残りわずかとなり「3年2組での楽しい思い出を作りたい」という子どもの思いから提案されたものである。これまでも2学期末にお楽しみ会について話し合い、実施している。しかし、実際はレクリエーション活動だけにとどまり、お楽しみ会をする意義などに気付くことができなかったと考える。そこで、本時では、お楽しみ会を議題にするが、「どのような会にするか」「会では何をするか」を話し合うことで、お楽しみ会の意義にも気付くことができるようにしたいと考える。

本時の話し合い活動では、多くの子どもの考えや意見を引き出し、互いの意見を認め合うことで、多くの子どもの思いや思いやりの心が込められた決定になるようにしていきたい。本議題を取り上げ、実践することにより、学級で創り上げる活動への意欲、学級への所属感を高め、自己肯定感を高めるための機会としたい。

3 本校研究テーマとの関連

研究テーマ「自己を見つめ、他者のよさに気付き、互いに認め励まし高め合う子ども育成」を目指した授業を行うことにした。特に、テーマの下線部を重視し、本授業での検証を行う。

- (1) 視点ア②学習過程 … 話し合い活動の流れを身に付け、自他の意見を大事にした話し合い活動を進めることで、自信をもって授業に参加することができるようにする。
- (2) 視点イ②交流活動の充実… 話し合い活動における子ども同士の意見の練り合いにより「他者理解」を深め、「認め合う」ことができるようにする。

4 子どもの実態(調査人数41人 令和3年1月12日)

- ① ペアやグループ学習で自分の考えが深まったり、高まったりすることがありますか。

・よくある	6名	・ある	21名	・あまりない	9名	・ない	5名
-------	----	-----	-----	--------	----	-----	----

- ② 学習をみんなですると楽しい。

・いつもそうだ	10名	・たまにそうだ	25名	・あまりそうでない	5名	・全くない	1名
---------	-----	---------	-----	-----------	----	-------	----

- ③ みんなで話し合うことは大切だと感じますか。

・とてもそう思う	20名	・そう思う	16名	・あまりそう思わない	5名	・思わない	0名
----------	-----	-------	-----	------------	----	-------	----

- ④ 話し合い活動は、生活の中で役に立つと思いますか。

・すごく役に立つ	9名	・まあまあ役に立つ	16名	・あまり役に立たない	12名	・役に立たない	4名
----------	----	-----------	-----	------------	-----	---------	----

- ⑤ 話し合い活動は好きですか。

・とてもそう思う	6名	・そう思う	19名	・あまりそう思わない	10名	・思わない	6名
----------	----	-------	-----	------------	-----	-------	----

- ⑥ 話し合いで自分の意見を発表できますか。

・よくできる	8名	・できる	12名	・あまりできない	15名	・できない	6名
--------	----	------	-----	----------	-----	-------	----

- ⑦ クラスのみんなは、話し合いでアイデアを出したり工夫したりして取り組んでいますか。

・とてもそう思う	13名	・そう思う	22名	・あまりそう思わない	3名	・思わない	3名
----------	-----	-------	-----	------------	----	-------	----

- ⑧ 話し合いなどのとき、人の意見をきちんと聞いていますか。

・よくできる	21名	・できる	12名	・あまりできない	7名	・できない	1名
--------	-----	------	-----	----------	----	-------	----

- ⑨ 友達のよい意見を聞いて、なるほどと納得したことがありますか。

・よくある	18名	・ある	15名	・あまりない	8名	・ない	0名
-------	-----	-----	-----	--------	----	-----	----

- ⑩ 話し合い活動をして学級がよりよくなったと感じることがありますか。

・よくある	3名	・ある	28名	・あまりない	7名	・ない	3名
-------	----	-----	-----	--------	----	-----	----

- ⑪ 話し合い活動をして、学級がよりよくなったと感じる理由は何ですか。

・ ルールを守ってよくなった。(5名)	・ けんかが少なくなった。(3名)
・ 周りの友達がちゃんとしている。(3名)	・ 決まったことを守っている。(2名)
・ お楽しみ会でルールがあってよかった。(2名)	・ みんなが素直になったから。
・ 困っている人を心配して助けてくれるから。	・ 授業中のおしゃべりがなくなった。
・ 話し合いができるようになってきたから。	・ 話し合いをして納得できたから。
・ 発表が多くなっているから。	・ 拍手が大きくなってきたから。
・ 話し合いをして仲良くなれるから。	

- ⑫ 話し合い活動をして学級がよりよくなれないと感じる理由は何ですか。

・ 決まったことを守れない人がいるから。(5名)
・ 人の話をちゃんと聞いてくれないから。(2名)
・ 話し合い中、ふざけたり遊んだりする人がいるから。(2名)
・ けんかがあるから。(2名)
・ 授業中、席を立ったり机にいらぬものを出したりしている人がいるから。
・ 話し合いに取り組んでくれないから。
・ 周りが注意しないから。

【考察】

質問①②より、ペアやグループ活動をすることで自分の考えを深めることができ、話し合い活動に意欲的に取り組むことができると考えられる。質問③④より、多数の子どもがみんなで話し合うことは大切だと感じているが、話し合い活動が生活の中で役立つと感じられていない子は半数いる。日頃の学級生活の中から議題を決め、決まったことが生活の中で生かされていくことが大切であると考えられる。質問⑤⑥より、話し合い活動で自分の意見を発表することに苦手意識があるため、話し合い活動に対して消極的な子どもがいることが考えられる。自分の考えに自信をもつことで、発表したり、話し合ったりする活動に積極的に参加することができるようになると考えられる。質問⑦⑧⑨より、友達の意見を聞いて納得したり、賛成したりすることができた経験が多いことが分かる。質問⑩より多数の子どもが話し合い活動をして学級がよりよくなったと感じているが、2割の子が感じられていない。話し合い活動で決まったことをみんなで実践することのよさを感じさせることが大切であると考えられる。

5 目標

		学びに向かう力、人間性等	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能
事前	全員	○ 学級をよりよくするために、進んで議題案を見つけようとする。	○ 提案理由や話合いの柱に沿って、自分なりの考えをもつことができる。	○ 本時の議題・提案理由・柱から、何について話し合うのかを理解できる。
	計画委員会	○ 教師の助言を受け、進んで話合いの計画を立てようとする。	○ 取り上げなければならない問題の優先順位を考えることができる。	○ 司会団としての自分の役割と話合いの進め方を理解することができる。
本時	全員	○ 話合いのめあてや柱を意識しながら、進んで話合いに参加しようとする。	○ 順序を考えて自分の意見を言ったり、話合いの流れに沿った意見を言ったりすることができる。	○ 発表の仕方や友達の発表を聞く時の態度など、話合いのきまりを理解できる。
	司会団	○ よりよい話合いにするために、司会団で協力して進行をしようとする。	○ みんなの発表を聞きながら、話合いの柱に沿って進行をすることができる。	○ 司会団としての自分の役割と話合いの進め方を理解できる。
事後	全員	○ 話合いで決まったことを、進んで実践しようとする。	○ 全員が楽しめることを考えながら、活動に取り組むことができる。	○ 自分や友達のよさや違いを認め合い、みんなで協力して取り組むことの大切さを理解できる。

6 指導上の留意点 ※ 授業の視点に沿って、教師の手立てを分類して記述

(1) 視点ア②学習過程において

- ア 話合いの流れを示した話合い活動ノートに、前もって自分の考えを準備することで、話合いの流れに見通しをもって、進んで参加することができるようにする。
- イ 子どもが思いや考えを書いた話合い活動ノートに教師が事前に目を通してコメントを記入したり、言葉掛けをしたりすることで、子どもが自信をもって発言することができるようにする。
- ウ 話合い活動の記録をする黒板に話合いの流れが分かるマークや賛成・心配な意見マークなどを使うことで、話合いの流れを把握し、それぞれの意見への状況が分かるようにする。
- エ 司会団と教師が事前に打合せを行うことで、話合いの進め方やまとめへの見通しをもつことができ、安心して話合いを進めることができるようにする。
- オ 計画から実践までの取組を称賛することで、みんなで決めたことを実践することの喜びを感じることができ、今後も友達と協力して話合い、行動していこうとする態度を育むようにする。

(2) 視点イ②交流活動の充実において

- ア グループで自分の意見を伝え合うことで、自分の意見だけでなく友達の意見を知ることができ、自他の意見を比べたり、そのよさを認め合ったりすることができるようにする。
- イ グループで話し合う時間を設定し、グループの中で自分の意見を伝えたり、自分の意見に対する友達の意見を聞いたりすることで、自分の考えを再構築することができるようにする。
- ウ グループから出された意見を子ども同士で練り合う場を設定することで、自分たちの意見に自信をもったり、他者の意見の意図に気づき変化・付加したりすることができるようにする。
- エ 発表した人に対する拍手やうなずきなどの聞く態度を育むことで、自分の意見を大事にされた自覚や相手の意見を大事にしようとする思いや認め合おうとする雰囲気作りをするようにする。
- オ 出された意見を短冊に書いて板書に活用することで、自分たちの出した意見を大事に扱われていると感じることができるようにする。
- カ 複数の意見が出たときの折り合いのつけ方を示すことで、自分の意見だけでなく複数の意見のよさを集めたり、優先順位をつけたりすることができるようにする。

7 指導計画

過程	主な活動	教師の支援(※ 評価)	評価方法
問題の意識化	議題を収集・処理する	○ 議題を選定する視点を示すことで、学級の実態や時期に応じた議題を選定できるようにする。 ○ 話合いの柱やめあて、進行の仕方を一緒に考えることで、見通しをもって話合いができるようにする。 ○ 話合い活動ノートに話合いの柱に沿った考えを記入し、事前に称賛することで、話合い活動に参加しようとする意欲を高めることができるようにする。 ※ 教師の助言を受けながら、進んで話合い活動の計画を立てようとすることができたか。 ※ よりよい学級にしていけるために、進んで議題案を見つけようとすることができたか。 ※ よりよい話合い活動になるように、議題についての意見を考えることができたか。	議題カード 観察 聞き取り 話合い活動ノート
	議題を選定する		
	話合いの計画を立てる		
	話合いの内容を知らせる		
	自分の考えをもつ		
問題の追求(本時)	雰囲気作り	○ 全員で歌を歌い雰囲気づくりをすることで、話合いに参加しやすいようにする。 ○ 議題・提案理由・めあて・柱・目安の時間を確認することで、本時の見通しをもつことができるようにする。 ○ 提案理由をキーワード化し黒板に提示することで、提案理由に沿った話合いにしたり、話合いの根拠にしたりすることができるようにする。 ○ 先生の話①では、議題や話合いの柱に沿って意見を出すことができるように指導する。 ○ 少人数で話し合う時間を設けるなど形態を工夫することで、自分や友達の意見をもとに考えることができるようにする。 ○ 本時の話合い活動の振り返りをするすることで、自他のよさを見つめることができるようにする。 ○ 先生の話②では、話合い活動の様子を具体的に評価し、決まったことに対する実践の意欲を高めるために指導する。 ※ 話合いの流れに沿って自分の意見を伝え、賛成・反対の立場で理由を述べることができたか。 ※ 一人一人の意見を大切にしながら、話合いの柱に沿って進行をすることができたか。	観察 話合い活動ノート
	議題を確認する		
	提案理由を説明する		
	話合いのめあてを確認する		
	先生の話①		
	話合い		
	決まったことを確認する		
	話合いの反省をする		
	先生の話②		
実践活動	話し合ったことを実践する	○ 話し合っただけで決まったことへの準備や実践への取組を称賛することで、学級全体での話合い活動や準備・実践への充実感を味わうことができるようにする。 ※ 学級で決まったことに進んで取り組むことができたか。 ※ 自分と友達のよさを認め合い、協力して取り組むことの大切さを理解できたか。	観察 話合い活動ノート
	実践を振り返る		
評価 反省	これまでの活動を振り返る	○ 話合い活動ノートへのコメントや活動への称賛をすることで、自分たちの実践のよさに気づき、次への意欲を高めることができるようにする。	観察 話合い活動ノート
	次の実践への意欲を持つ		

8 本時の実際

(1) 目標

ア めあてや提案理由，話し合いの柱を意識しながら積極的に話し合いに参加しようとする。

【学びに向かう力，人間性等】

イ 思い出に残るお楽しみ会にするために，どんな会を行えばよいか考え，話し合う。

【思考力，判断力，表現力等】

ウ 発表の仕方や聞くときの態度など話し合いのきまりや基本的な進め方を理解できる。

【知識及び技能】

(2) 実際

議題		3年2組お楽しみ会をしよう。				
提案理由		3年2組での楽しい思い出を作りたいから。				
めあて		自分の意見を伝え、友達意見を聞こう。				
係		司会	副司会	ノート記録	黒板記録	
氏名		片野田 彩香	柳川 和希	増山 陽真	中原 愛渚	岩田 紗来 村野 凜太郎
過程	活動の順序			時間	教師の支援 ①学習過程 ②交流活動の充実	
問題の意識化	1 はじめの言葉 2 歌「さんぽ」 3 係の紹介 4 議題の確認 5 提案理由の説明 6 めあての確認 自分の意見を伝え、友達意見を聞こう。 7 先生の話①			7分	① 進行表に沿って進めることで、司会団が自分の役割に責任をもって進めることができるようにする。 ① 議題やめあて、柱、時間の目安を確認することで、本時に見通しをもつことができるようにする。 ② 自他の意見を認めることを指導することで学級の意見としてまとまっていくようにする。 ① 最後のお楽しみ会であることを確認することで、話し合いの方向を共有することができるようにする。	
	議題の追求	8 話し合い 柱Ⅰどんなお楽しみ会にするか。 ・ みんなが楽しい ・ みんなの思い出に残る ・ みんながうれしい 柱Ⅱ何をするか。 ・ けいどろ ・ 何でもバスケット ・ 自まん大会 ・ きらり交換			15分	① 話し合い活動ノートを使うことで、自分の意見を再構築することができるようにする。 ①②板書の工夫をすることで、話し合いの流れや状況をつかむことができるようにする。 ② グループで話し合い、話し合う場を設定することで自他の意見を交流することができるようにする。 ② グループでまとめた意見を出し合うことで、他者の意見にも気付くことができるようにする。 ② 子ども同士で練り合う場を設定することで、よりよい意見にまとめることができるようにする。 ② 折り合いのつけ方を例にしてまとめることで、全ての意見を大事にした話し合いにするようにする。
実践への意欲化		9 決まったことの発表 Ⅰ みんなが主役の会に Ⅰ みんなの思いがこもった会に Ⅰ みんなの思い出に残る会に Ⅱ ～Ⅰ～するために〇〇をする 10 話し合いの反省(振り返り) 11 先生の話② 12 終わりの言葉			8分	

(3) 評価

ア めあてや提案理由，話し合いの柱を意識しながら積極的に話し合いに参加しようとしたか。

【学びに向かう力，人間性等】

イ 思い出に残るお楽しみ会にするため，どんな会を行えばよいか考え，話し合うことができたか。

【思考力，判断力，表現力等】

ウ 発表の仕方や聞くときの態度など話し合いのきまりや基本的な進め方を理解できたか。

【知識及び技能】